

ワンコインデコーダ（モータ用）を FL デコーダとして利用と施工

えのやん@東京都

1. 概要

Web Nucky 殿で頒布されているワンコインデコーダを車両の窓から見えることなく施工します。1 編成（3 両以上）を DCC 化するにあたり 2 個以上の FL デコーダを用意する必要がありましたが、FL デコーダをワンコインデコーダに置き換えることで既製品と比較してコストを 1/3 程度に抑えることが出来ます。

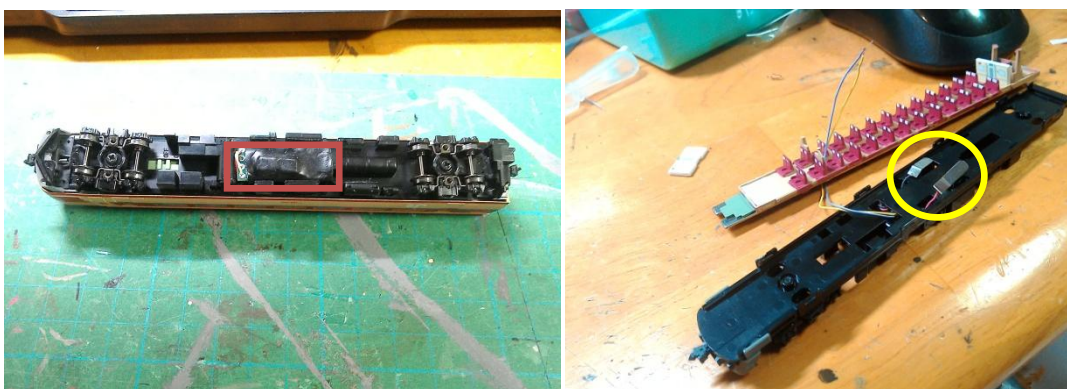
我が車両区では半数以上の車両に室内灯を導入しており、内装表現もされているものもあります。窓からデコーダが見えるとせっかくの室内表現が台無しになってしまうため、デコーダ本体を天井裏もしくは床下に施工します。



ここにデコーダあります

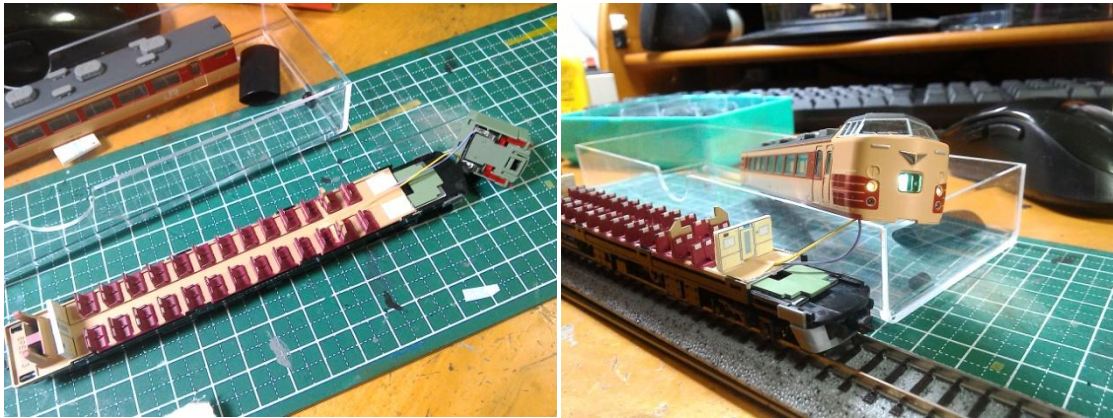
2. 施工方法

一例として TOMIX の 189 系を施工します。



床下機器の内側を薄刃のこぎりやハンドドリル用いて床下にデコーダを入れるスペースを赤枠内に作成します。床下の色に合わせて熱収縮チューブを全体に巻いています。配線を逃がす穴も必要に応じて空けます。

TOMIX の道電板はウェイトも兼ねているせいか半田の乗りが悪かったので、黄色の円で囲った部分の様にジャンクの金属板を半田付けして道電板に押さえるようにしました。



ワンコインデコーダ（モータ用）の CV 値を設定することで両極性タイプの FL デコーダにすることができるので、ライト用基板の改造は最低限で済みます。室内の配線を目立たなくさせるために、床の色に塗ったマスキングテープを配線の固定を兼ねて行いました。

道電板とライト用基板の絶縁は ON・OFF スイッチがあったため「OFF」にすることで隔離しています（TOMIX はこのタイプが多かったです）。

動作確認をして問題がなければ再組み立てを行って施工完了です。

3. 出来栄え



このように室内にデコーダを入れることなくすっきりと施工することが出来ました。デッキには配線が少し見えていますが、窓の大きい客室内で見えないことは結構いいです。

4. むすび

このように DCC フレンドリーでない車両でも工夫次第で室内にデコーダが見えることなく施工することができます。室内灯と内装表現をした車両の出来映えを損なうことなく DCC 化することによって鉄道模型の運転の幅が広がると言えます。なお、この編成のモーターデコーダは EM13 を用いたので、詳細は書きませんでした。